

岩倉市中学生海外派遣事業報告書

MONGOLIA 2025



2025年7月31日(木)～8日(金)

目 次

はじめに	2
派遣団名簿	3
行程表	4
旅のあしあと	6
旅の思い出	14
小川 心葉音 ホストファミリーと過ごした時間	15
奥田 理斗 異文化に触れた旅	17
島田 聡介 モンゴルでのホームステイ体験	19
鈴木 心斗 This is Mongolia!!	21
鈴木 仁渚 2つのホストファミリーに出会えて	23
中村 美結 ホストファミリーとの思い出	25
犬童 大地 モンゴル派遣の思い出～ホームステイ～	27
川本 美華 旅の思い出	29
三尾 龍平 「停電中のシャガイ」	31
米田 はなみ 色々な体験を通して感じたこと	33
訪問団に同行して	35

はじめに

岩倉中学校 3 年 団長 島田 聡介

僕たち岩倉市中学生海外派遣団は、2025 年 7 月 31 日から 8 月 8 日までの 9 日間、モンゴルを訪問しました。

現地では新モンゴル高校の皆さんやホームステイ先の家族と交流し、日本とは異なる文化や人との関わり方、自然の美しさ、そして常識の違いに多くの驚きと発見がありました。日本ではできないような体験をたくさんさせていただき、非常に貴重な時間を過ごすことができました。

ウランバートルに到着した日の早朝、空港のすぐ近くにある小さな丘を走って登り、日の出と大草原の絶景を眺めることが出来ました。その景色は忘れることが出来ないほど美しいもので、撮った写真は宝物となりました。モンゴルでは日常の風景かもしれませんが、僕はとても感動しました。

丘を下りたとき、1 本の鮮やかな虹が出ると、続いて 2 本目が現れ、ガイドの人からとても珍しいと聞きました。まるでモンゴルに歓迎されているように感じ、この派遣の素晴らしいスタートになりました。

僕は昨年この派遣事業に応募しましたが、抽選にもれて参加することができませんでした。そのため、「今年こそは絶対に行きたい」という強い思いを持って再び応募し、無事に参加することができました。さらに団長に選ばれたことで責任も大きくなりましたが、その分この派遣事業に対する思いもより強くなり、全力で取り組もうと思うようになりました。

特に印象に残っているのは、ホームステイ先のご家族の日本語力です。ホストの方は日本語が上手で、とても驚きました。日常会話は問題なくできましたが、時には言葉がうまく伝わらない場面もありました。そんな時は、お互いに分からない言葉だけ英単語で伝え合うなど、工夫をしながら意思疎通をしました。言葉が完璧でなくても、「伝えたい」という思いがあれば、相手に気持ちはしっかりと届くのだということを学びました。

最初はお互いに緊張していたものの、会話をしていくうちに自然と打ち解けていき、心から交流を楽しめるようになっていくのを感じました。この「緊張が楽しさに変わっていく」感覚は、モンゴルの方々との交流だけでなく、派遣団員同士の関係にも共通していました。

学校や学年が違って、一緒に行動をする中で絆が深まり、協力し合うことの大切さを改めて感じる事が出来ました。どんな事にも力を合わせて活動することで、仲間との信頼関係を築くことができました。

新モンゴル高校の先生方、僕たちを温かく迎え入れてくださったホストファミリーの皆様、そして現地でお世話になったすべての方々のおかげで、安心して有意義な時間を過ごすことができました。現地の皆様の温かいおもてなしと親切なご対応に、心から感謝申し上げます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった岩倉市関係者の皆様、岩倉市国際交流協会の皆様をはじめ、支えてくれた家族の皆様、派遣団員一同を代表して深く感謝申し上げます。

2025 年度 岩倉市中学生海外派遣団 名簿

	氏 名	フリガナ	性	学 年
1	小川 心葉音	おがわ こはね	F	岩中 3 年
2	奥田 理斗	おくだ りと	F	南中 3 年
3	島田 聡介	しまだ そうすけ	M	岩中 3 年
4	鈴木 心人	すずき しんと	M	岩中 3 年
5	鈴木 仁渚	すずき にいな	F	岩中 3 年
6	中村 美結	なかむら みゆ	F	南中 3 年
7	犬童 大地	いぬどう だいち	M	岩中 2 年
8	川本 美華	かわもと みはな	F	岩中 1 年
9	三尾 龍平	みお りゅうへい	M	岩中 1 年
10	米田 はなみ	よねだ はなみ	F	岩中 1 年

引率者

No.	氏 名	所 属
1	三浦 光俊	国際交流協会
2	山田 知亜季	国際交流協会

行 程 表

7月31日
木曜日

1日目

09:45 岩倉駅集合&出発式
14:10 中部国際空港から KE742 で仁川空港へ
18:30 空港で夕食

いってきます！

8月1日
金曜日

2日目

01:55 仁川空港から OM310 でチンギスハン空港へ
03:45 モンゴル到着
03:55 バスに乗車
06:40 サイサンの丘
08:50 スフバートル広場
09:35 ノゴンノール公園
11:00 日本人墓地
12:00 昼食
17:40 モンゴル民族舞踊コンサート
20:20 フラワーホテルで中華の夕食

モンゴルの伝統舞踊
を間近で見られた

8月2日
土曜日

3日目

07:00 ホテルでバイキング形式の朝食
09:00 新モンゴル校でホストファミリーと対面

ドキドキの瞬間!!

8月3日
日曜日

4日目

ホストファミリーと過ごす

8月4日
月曜日

5日目

09:30 サマースクール参加
11:00 校長先生に挨拶
12:00 学校カフェテリアで昼食
13:00 サマースクール参加
14:00 ホストファミリーと合流

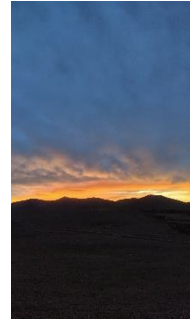
生徒たちと日本語でい
っぱい交流した！

8月5日
火曜日

6日目

09:30 サマースクール参加
12:00 学校カフェテリアで昼食
13:00 交流会

ソーラン節と cosmos
を披露した！伝言ゲー
ムで仲を深めた！



8月6日
水曜日

15:00 新モンゴル校でカラオケ大会
17:00 カラオケ大会終了

日本の曲をたくさん
歌ってくれていた！

7日目
ホストファミリーと過ごす

ホストファミリーと最
高の思い出を作れた！



8月7日
木曜日

8日目
08:30 新モンゴル高校集合
ホストファミリーとお別れ
10:30 テレルジ国立公園で乗馬体験
12:30 ツーリストキャンプで昼食
15:30 在モンゴル日本大使館
16:45 ノミンデパートで買い物
18:50 夕食

伝統料理の「ホーショール」
と「ボーズ」をたべ
た！

伝統楽器の馬頭琴を
実際に演奏した！

8月8日
金曜日

9日目
06:30 ホテルでバイキング形式の朝食
09:25 空港到着
10:35 チンギスハン空港から
OM303 で仁川空港へ
14:35 仁川空港に到着
19:00 仁川空港から KE743 で中部国際空港へ
20:45 中部国際空港に到着
22:20 岩倉駅に到着



ただいま！

旅のあしあと



いざモンゴルへ出発

7月31日、木曜日の朝9時45分。私はモンゴル派遣団のTシャツを着て岩倉駅に集まり、モンゴル派遣の団員、家族、国際交流協会の内藤和子さん、教育長の野木森広さんと一緒に出発式を迎えました。最初に団員の小川こはねさんが挨拶をしました。その後、野木森



さんから「戸惑うことがたくさんあるかも知れないけれど、それが皆さんの力になると思います。」という挨拶の言葉を頂きました。団員みんなでモンゴル派遣団のTシャツを着てモンゴルに出発をするのでより気が引き締まりました。そして、いよいよモンゴルに向かうんだという不安な気持ちとワクワク

する気持ちがさらに強まりました。

10時05分に岩倉駅を出発し、10時50分に中部国際空港駅に到着しました。空港に着くと、11時から11時30分までの自由時間があり、少しだけ空港を回りました。お土産のコーナーには日本人の方はもちろんいたけれど海外の方もたくさんいました。その後、11時30分にスーツケースを預け、12時10分には荷物検査を受けました。12時22分に搭乗エリアに入り、自由時間を使ってお土産を見たり、軽く休憩を取ったりして、飛行機を待ちました。13時47分、ソウル仁川空港行きの便KE742に搭乗しました。飛行機は14時に離陸し、約2時間30分の空の旅を経て15時29分に仁川空港に到着しました。初めての韓国の地に派遣団のみんなは少し興奮していました。

仁川空港に到着した後乗り継ぎのため、電車でターミナルの間を移動しました。この電車は無人で、日本語の案内などもあったのでとても驚きました。また、韓国が日本よりも発展しているのを知るいい機会になったとも思います。16時27分には荷物検査を受け、その後、16時30分から18時00分までの自由時間となりました。各自、空港内を歩きながら、夕飯を探したり、ショップを見て回りました。18時00分に1回みんなで集まり、さっき空港内で目星をつけたところのどこで夕飯を食べたいか話し合いました。たくさん美味しそうなお店があったのですが人が多く混んでいたのが最終的にはフードコートでそれぞれが食べたい料理を選びました。夕食は18時30分から19時20分の間に食べました。みんなそれぞれ食べたい韓国料理やファストフードを選んでいました。みんなで食事を楽しんだ後、19時17分から21時00分まで自由時間があり、それぞれ友達と話をしたり、休憩室で仮眠をとったりして、過ごしました。仁川空港での過ごし方や食事を通じて、ほんの少しだけ海外に触れた感覚があり、モンゴルへの期待感が一層高まりました。（米田 はなみ）

初めてのモンゴル

8月1日金曜日、日本をたって丸1日が過ぎた早朝4時半に、私たちは韓国の仁川空港からモンゴルのウランバートルに到着しました。夜中に慣れない飛行機での移動だったのでとても眠かったですが、ウランバートルの空港を出たときはやっと着いたという気持ちでうれしかったです。

到着後はさっそくバスに乗って市内観光に出かけました。最初に「ザイサンの丘」に行きました。階段を登り歩いていった丘からは街を見下ろすことができ、アパートの住宅が立ち並ぶ景色が見えました。次に「スフバートル広場」に行きました。以前テレビドラマのVIVANの撮影で有名になった広場で白い大きな建物の前に独立宣言を記念して造られたスフバートルの像が建っていました。イメージしていたよりはるかに大きかったです。その後、ノゴーンノール公園に行きました。モンゴルと日本の外交関係樹立50周年を記念して開設された公園で、園内には大きな池があり、ゲル型の資料館が設立されていました。ゲル資料館内には、日本人抑留者の写真や日誌、当時の過酷な状況を知ることができました。



昼食はウランバートル市内のホテルで、モンゴル料理レストランでした。鍋に石を入れて肉や野菜を食べました。日本の鍋とまったく違い驚きました。昼食後は宿泊ホテルにチェックインし、それぞれの部屋で休憩しました。滞在したホテルはウランバートルの中心にある「フラワーホテル」というところで、日本式の大浴場があり、日本語を話せるスタッフもいるそうで日本人のお客さんも他にいました。日本を出発してからずっと移動で、かなり疲れていたのも、ホテルの部屋で休憩できてよかったです。

休憩後にはモンゴル民族舞踊コンサートに出かけました。ホテルからバスに乗り会場へ行きました。民族衣装を着た人たちが歌ったり、踊ったりしてとても興味深かったです。馬頭琴という伝統的な楽器を使った演奏も初めて聴きました。貴重な体験となりました。

ホテルに戻ってきてからは夕食でした。中華料理のレストランで、麻婆豆腐、チャーハンなど日本でなじみの料理でしたが、モンゴル風味の中華料理だったので不思議な味がしました。1日目の市内観光は見るものすべてが日本と違い新鮮で、どこに行っても驚きと感動でした。

(鈴木 心人)

サマースクール 1 日目

私たちは 5 日目に新モンゴル校に初めて行きました。新モンゴル校には小学生から大学までありますが、私たちは高校の授業に参加させてもらいました。

最初に日本語で自己紹介ゲームをし、名前や趣味、将来の夢などを発表しました。やり方は、まず 1 人ずつ小さな紙に内容を書き、先生が投げた紙ボールをキャッチした人から発表する形でした。みんなのことについてたくさん知ることができ、楽しかったです。モンゴル校の生徒たちは終始日本語ですらすら話していたことにまず驚きました。その後日本語の



授業を行っていたのですが、授業で取りあつかっていた内容も私たちの国語の教科書以上に難しい文章や文法の問題を普通に解いていました。問題は漢字の偏や旁を考えるもの、日本語の文章の聞き取り、日本語の作文です。難しい問題にも 1 人で考えて答えを出していたのがすごかったです。さらに、生徒たちは日本の歌 (Vaundy の踊り子) を歌詞も覚えて上手に歌っていました。

発表会で後日歌うようです。私たちが英語やモンゴル語の歌を覚えて歌うなんてとてもできないので、本当に驚きました。

教室は日本のものと似ていますが、生徒たちはとても自由な雰囲気できれいに会話しながら授業を進めていました。先生とも距離が近く仲良く接していました。サボっていた生徒が先生に見つかり、授業でやった漢字をみんなの前で黒板に書かされていたのがおもしろかったです。放課中には近くの席の子が日本語でたくさん話しかけてくれて、好きな曲や趣味、年齢、普段何をしているかなどお互い聞き合い、知り合うことができとても仲良くなれたのでうれしかったです。また、モンゴルの生徒たちは自分以外のクラスに出入りしていて、多くの人とコミュニケーションをとっていてとても楽しそうだなと思いました。

3 時間授業をした後、校長先生を訪ねて校長室に行きました。校長先生は男性でとても優しくでした。部屋の様子は日本とあまり変わらない雰囲気でしたが、壁にはチンギス・ハンの肖像画やモンゴル校の制服をきた像などが飾ってありました。校長先生はモンゴルの住宅事情、都市や田舎の違い、授業の方針などを通訳を介して詳しく話してくださいました。また、校長先生からあめを 1 つずつもらいました。それはモンゴルの習慣で、来てもらったお客さんにお菓子を 1 つずつ配り、食べなくてもいいからもらおうそうです。日本にはないおもしろい習慣だなと思いました。

私はこのサマースクールを通じて、現地の高校を訪問し、たくさんの生徒と関わり仲良くすることができ、日本とモンゴルの教育や文化の違いをたくさん見つけることができました。そこで 感じたことや学んできたことを今後活かしていきたいと思います。(鈴木 仁渚)

8月5日の学校訪問の様子

二日目の学校は全員8時30分の少し前に新モンゴル学園に集合した。連日の新鮮な経験の蓄積による疲れなのか皆が眠そうにしていた。

僕と三尾龍平君のクラスでは8時50分に朝のホームルームが始まった。僕たちのクラスの「だいち先生」がモンゴルの生徒の名前を読み上げて出席を取った。教室には約25の座席があったが、その時点で来ている人は10人前後だった。ほとんどが16歳程度の年齢の生徒たちだった。9時から1時間目の授業が始まった。1時間目は日本語の長文読解の授業だった。新モンゴル学園の生徒たちはとても苦戦しているように感じられた。先生がヒントを出してようやく全員が分かったような反応をしていた。僕たちも少し苦戦したが何とか解くことができた。そのような問題を4問くらい進めた。そこで50分間の1時間目が終了した。新モンゴル学園の生徒は1時間目と2時間目の授業の間にトランプをしたり他のクラスの友達と話したりしていた。派遣団の人たちも徐々に仲を深めていった。

2時間目の授業は作文だった。この授業では「失敗は成功のもと」というタイトルで作文を書いた。まず最初に小さい紙に『はじめ、中、終わり』と各パートの構成を作った。生徒たちが書く内容は日本語の勉強の事やバスケットボールの事を書く様子が観察できた。小さい紙に書き終わった人は400字の原稿用紙に書く工程に進んだ。このタイトルの授業を3週間かけて進めていると聞いた。僕たちは書き終わったが新モンゴル学園の多くの生徒は書き終わらないまま50分の授業が終わった。2時間目と3時間目の休み時間は同じように過ごしていた。

3時間目は8月21日に発表するらしい劇の配役を決める時間だった。僕たちのクラスでは「君の名は」の映画を基にしたストーリーというのは決まっていた。その配役や撮影日、誰が監督や編集者を務めるのかを話し合い始めた。僕の隣に座っていたウヌさんが話し合いのリーダーだった。まずまずテンポよく決まっていた。僕たちも配役の決定などにはアドバイスをする時間があり「こうしたら良いのではないか」ということを提案した。

3時間目の授業が終わると昼食の時間が始まった。派遣団のみんなまで学食を食べに行った。この日の学食はカレーライスで全員美味しく食べていた。食べ終わった後は午前中の授業などを軽く話した。

13時から4時間目の授業が始まった。午前中よりも明らかに人が増えてにぎやかになった。4時間目はことわざの授業だった。「猿も木から落ちる」「二兎を追う者は一兎をも得ず」「犬も歩けば棒に当たる」「負けるが勝ち」等のことわざを勉強した。時折意味を聞かれることがあって、僕と三尾君で協力して教える事ができた。その4時間目が終わりその日の授業は全て終了した。帰りのホームルームが終わり派遣団の人はホストファミリーと一緒にすぐに帰る人と新モンゴル学園のカラオケ大会に参加する人に分かれて解散になった。

僕はカラオケ大会に参加した。奥田さん、島田くん、中村さん、川本さんと五人だった。島田くんは米津玄師のプラズマを現地の生徒と一緒に歌った。2時間ほどカラオケを楽しんで16時くらいにホストファミリーと合流して車で帰宅した。

(犬童 大地)



交流会

交流会でのパフォーマンスは、合唱「COSMOS」、日本の伝統舞踊「ソーラン節」の2つを披露することになりました。これらは、『みんなでひとつになろう』という心温かい歌詞の意味や、日本文化を象徴するような踊りを知ってもらいたいという想いで決まりました。内容が決定してから、リーダーを中心にして、練習が始まりました。

私たちは、事前の研修で互いに意見を出し合ったり、得意分野を分担するなど、一生懸命練習してきました。当日パフォーマンスを行う環境がわからないことや、10人全員で息を合わせることができるのかなど、練習を重ねても不安がたくさんありました。

本番当日、午前の授業を終え、梅クラスのみなさんと自己紹介やアイスブレイクをしました。モンゴルについての紹介プレゼンを用意してくださり、グループに分かれて見学をしました。ここでは、モンゴル校のみなさんの日本語の上手さにとても驚きました。モンゴルに来て数日の間に体験したことも改めて詳しく知ることができたり、事前学習では調べきれいいなかった文化も多く、これからしたいことなどを見つけられたり、有意義な時間を送ることができました。また、アイスブレイクの無言伝言ゲームでは、チームの人とジェスチャーを使い合ってお題を伝えていきました。見たこともない不思議な動きをしている人や、全く違う答えが出てくるチームなどがあり、あちこちでみんなの笑い声が聞こえました。言語が違っても、笑い声は世界共通だと嬉しくなった瞬間でした。



ついにパフォーマンスの時間になりました。初めは恥ずかしさや緊張もしたけれど、モンゴル校の生徒さんたちの雰囲気がとても温かく、私たちもテキパキ効率よく動くことができました。その中でも、1番心配していた「ソーラン節」。練習のときから何度も姿勢や掛け声などを研究し続けて

きました。その意気込みが届いたのか、位置について構えると、モンゴル校のみなさんが「Oh～～！」と盛り上がってくれたり、途中トラブルもあったけれど、拍手でエールを送ってくれたり、頑張るエネルギーをもらえて無事成功しました。

派遣団の発表が終わり、たくさんの拍手をいただくとモンゴル校のみなさんからの質問がありました。発表を楽しんで、さらに興味を持って見てくれて、嬉しくなりました。その後の交流でも、優しく話しかけてくれました。自己紹介で知れたお互いの趣味の話や、モンゴルでのホームステイの話など、言語の壁を越えてたくさん交流することができました。中には、ナルトダンスを一緒に踊っている子もいました。

落ち着いてから私たちは、パフォーマンスをふりかえりました。「COSMOS」では、練習の倍の声を出し、目の前に座っているみんなに私たちが伝えたい思いを届けられたと思います。「ソーラン節」では、急遽制服での披露だったけれど、みんな恥ずかしさを捨てて、大きな動きや掛け声で盛り上げられたと思います。この交流会で学んだことは、いつでも笑顔でいると、お互いに話しかけたり交流しやすくなったりすることです。また、たとえ相手に100%うまく伝えられなくても、言葉だけではなく、ジェスチャーや表情を使うなど、体全体で一生懸命伝えようとする気持ちが1番大切だということを学びました。そしてこれらのことは、海外においてだけの話ではなく、対日本人の場合でも言えることだと気付きました。

(小川 心葉音)

8月7日観光

8月7日、ウランバートル市内観光をしました。

8時30分に新モンゴル校でホストファミリーと別れた後に専用車に乗って、テレルジ国立公園へと向かいました。

テレルジ国立公園にて乗馬体験をしました。モンゴルの馬は日本の馬と種類がちがいました。乗馬体験後に馬乳酒とパンのようなものをもらいました。そして、昼食をとる場所へ向かいました。

12時頃、ツーリストキャンプで昼食をとりました。そこでは、ボーズなどのモンゴル料理を食べました。

その後、在モンゴル日本大使館訪問まで時間があったので、デパートへと行きました。その地下の食品売り場にて、色々な食品の説明を受けた後、食品売り場を見てまわりました。そして、一階も少し見てまわりました。その後、在モンゴル日本大使館訪問の時間が近づいたので、デパートを後にしました。

3時30分前に在モンゴル日本大使館に着きました。まず、スマートフォンをまとめて預けることになりました。そして、2階に上がり、たくさんある部屋のうちの1つの部屋に入りました。その後、馬頭琴のプレゼンテーションが始まりました。馬頭琴の始まりに関する話についてや馬頭琴の歴史、馬頭琴の活躍に関わった人の話や馬頭琴の現在についてなどです。また、馬頭琴を演奏している人の動画など、とても興味深いものがありました。そして、馬頭琴が縁起ものであることや演奏用と鑑賞用があることなど、初めて知ることなどがたくさんありました。また、馬頭琴をさわって、弾いてみることもできました。大きさはピアノとチェロの間くらいで、足にはさんで弾きました。弾き方はコントラバスと同じような弾き方でした。でも、弦楽器というのは、普段からさわる機会がないので、少し難しかったです。在モンゴル日本大使館にはいませんでした。



在モンゴル日本大使館訪問後にノミンデパートへと向かいました。一階の食品売り場には入ってすぐのところにはお土産になりそうなお菓子があり、そのすぐ近くにはシャンプーやトリートメント、トイレットペーパーなどの日用品やアメやチョコレートなどのお菓子コーナーがあり、飲み物などが売っている場所もありました。また、食品売り場を出ると、パン屋を売っているお店やアクセサリショップ、化粧品を売っているお店がありました。6階へいくとそこにはお土産になりそうなものが売っている階でした。絵画やチェスなどの高そうなものからキーホルダーや小物入れなどの手の届きやすい値段のものまで色々なものがありました。他にも本屋やおもちゃ売り場などもありました。時間がなくてあまり見れませんでした。とても大きく、名古屋や東京などの都会にあるデパートのような大きさでした。そして、最初に別れた場所で待ち合わせをしてから夕飯を食べるレストランへと向かいました。

7時30分頃に夕飯を食べました。メニューはしゃぶしゃぶのようなもので羊肉、牛肉、馬肉、野菜、めんといったものがありました。他にも副菜のようなものがありました。日本ではあまり食べることのできない料理だと思いました。

夕飯を食べた後、モンゴル初日にも泊まった、フラワーホテルに向かい、チェックインしました。

(川本 美華)

「さよならモンゴル、ただいま日本」

「おはようございます！」朝、ホテルのバイキングで朝食を食べた後、ロビーで集合。日本に帰れるから、なんだか元気に見える人が多かったが専用車に乗り、空港へ向かう最中は、やはりみんな疲れているのか寝ている人が多かった。



空港に着いて、荷物を預け始めた頃にはもう搭乗開始 10 分前だった。荷物を預け終わると、そこからはついて行けないとガイドのエイギーさんが言ったので、みんなで写真を撮って感謝を伝えた。その後の手荷物検査では靴も脱いでくれと言われた。手荷物検査が終わった後、搭乗開始が遅れているのか時間があったので、お土産を買っている人もいた。しかし、やはり空港価格

になっているので、何も買えない人ももちろんいた。そして飛行機に乗り込みウランバートルから仁川へ向かった。

3 時間ほどのフライトを経て、15 時ごろに仁川に到着。乗り換えの手荷物検査場に行き、仁川空港の地下にあるリニアモーターカーで一度乗り換えを挟んでターミナルを移動した。その後、全員で旅の振り返りを発表した。例えばこんな意見が出た。

良い所：みんな何事も楽しめていた。

悪い所：時間を守れない人がいた。

それが終わった後は報告集の役割分担を決めたり、文書と写真の送り先の説明などがあった。その後は 18 時まで自由に空港内を探検（ターミナル移動禁止）をしたり、免税店で韓国土産を買ったり、休憩スペースでゆっくりしたり、みんな思い思いに自由な時間を使っていた。仁川空港は一つのターミナルでも全てを回るには 3 時間くらいいるほどの広さで、滑走路も 14 本ほどあった。

全員集合したが、中部国際空港への飛行機が遅延していた。「また？行きも大韓航空遅れてたよね。」「ならお菓子でも食べない？」みんなちょっとしたものを食べたり写真を見せあったり楽しそうには話していた。結局、19 時ごろに仁川を発つことは出来た。

中部国際空港に到着し、飛行機を降りた時、「帰ってきた〜」「日本語が一番大きく書いてあってちょっと感動した。」「すごい安心感」などの声が聞こえた。みんな日本に着いて嬉しそうだった。その後、荷物の受け取りレーンで荷物を待っていたが、数人の荷物が全然来なくて、結構待つことになった。税関を出て、通路を歩くと中部国際空港駅に繋がっていて、そこで記念撮影する人もいた。

保護者に連絡をした後、ミュースカイに乗って岩倉へ向かって出発した。ミュースカイの中では専用車とは違い、みんな起きていた。きっと飛行機で寝ていたからか、それとも岩倉が待ち切れなくて眠くなんてならないのかのどちらかだと思う。

岩倉に近づくとも荷物を持って降りる準備を始めた。その時に「景色だけすごい安心出来る〜」「アピタだ！」など内心すごくはしゃいでいるんだなと分かる声が聞こえて明るい雰囲気になってきた。ドアが開いてホームに出ると「着いたー」「めっちゃ懐かしく感じる！」「長くて短かったな〜」いろんな声が聞こえた。そしてエレベーターを降りて地下へ出ると「お帰りなさい〜」保護者のみなさんがあたたかく出迎えてくれた。

その後帰着式をした、モンゴルで様々なことを学んだこと、しっかりと楽しんでこれたこと、そんなことを話していた。たくさんの人に支えてもらったモンゴル派遣が終わった。そしてみんな自宅へ帰って行った。

（三尾 龍平）

旅の思い出



ホストファミリーと過ごした時間

岩倉中学校3年 小川 心葉音

この旅で最も楽しみにしていたのはホームステイでした。どんな家族が迎えてくれるのか分からないときどきと、生活をする上で必要な言葉が通じるのかなど不安が入り混じって、出発前は心配事もたくさんありました。

いよいよホストファミリーとの対面の日がきました。名前を呼ばれると、そこに立っていたのは私と同じくらいの背丈で長い髪のにこにこした女の子でした。緊張していた私に笑顔で手を振ってくれて、本当に嬉しかったことを覚えています。本名はとても難しいので、彼女をキヤーと呼びました。

キヤーの家に着いてから私は、お父さん、お母さん、お姉さん、弟、おばあちゃんに会いました。みんな優しく心が落ち着きました。温かいミルクティーをいただいたり、馬乳酒の儀式をしたり、正式に迎えていただきました。その時飲んだ馬乳酒の不思議な味は、一生忘れられません。その日は仏教の神殿へ行ったり、アイスを食べながら歩いたり、ショッピングモールにも連れて行ってくれました。

ときどきのホームステイ1日目！さっそくキヤーと田舎へお祭りを見に行きました。ウランバートルからバスで1時間くらいの草原が広がる場所には、野生の馬や羊、やぎや牛がたくさんいました。天皇陛下も参加されたという、モンゴルの伝統的な『ナーダム』というお祭りを見ました。ナーダム祭では、競馬、弓道、モンゴル相撲を行います。そこでは『ホーショル』というモンゴルの揚げ餃子を食べました。日本人の私にはとても落ち着く味で、モンゴル料理の中で1番美味しいと思いました。いい天気暑かったけれど、モンゴルの文化に触れられたいい機会になりました。晩御飯では「ポーズ」という小籠包のようなものを、お母さんたちと一緒に作って食べました。

2日目、3日目は新モンゴル学園に通いました。ホームルームや授業は日本語なので、まるで日本に戻ったような不思議な感覚でした。話す言語が違いますが、やはり生徒同士の会話は日本と同じように楽しそうなものでした。みんなの音読をチェックしたり、



先生の説明のサポートをしたり、初めての体験もできて楽しかったです。校長先生とのご挨拶では、学校のことやモンゴルのことについて質問ができ、かわいいお菓子をいただくこともできました。その後の交流会では、モンゴル校のみんなの温かい雰囲気のおかげで、緊張もしたけれど、練習の成果を発揮することができ、踊りも歌も大成功におさめることができました。



ホームステイ中に、国立博物館や猫カフェ、夜の公園や別荘にも連れて行ってくれました。どこも日本とは全く違う景色を見ることができ、特に夜 11 時の公園なんて行ったことがなかったので、新鮮な空気を吸いながらキアーの弟とブランコに乗ったことが本当に嬉しかったです。でも私が 1 番好きな時間は、ホストファミリーのお家で晩御飯を一緒に食べる時でした。家族みんなで日本のことやモンゴルでの生活のことなどをたくさん話して、笑顔で食事をする時間が私にとって大切な宝物です。

5 日間のホームステイがもう終わってしまい、ホストファミリーの方とのお別れの時間がきました。お家を出発する前に、お母さんから「あなのホストになれて、本当によかった。良い旅を。」と言ってもらいました。私も楽しかった思い出がよみがえってきて、胸がキュッとなりました。学校の前でのお別れも、何度もハグをしてさよならを言いました。言語の違いで全てをうまく伝えられない時もあったけれど、諦めずに伝えようとする気持ちを大切にしながらなんとか伝える努力をしてきました。そんなことがあったからこそ、苦しいことも楽しいことも、さまざまなことが経験できました。

帰国後、母に「モンゴルから帰ってきたら、ジェスチャーが増えたね。話し方も上手になったね。」と言われ、ハッとしました。家族にモンゴルでの楽しかった生活を伝えたくて、夢中でそのようにしていたのだと思いますが、言葉が通じる日本でも、相手に伝える方法がレベルアップできて嬉しくなりました。これからも生活の中に、たくさん取り入れていきたいと思います。



異文化に触れた旅

南部中学校3年 奥田 理斗

私はホストファミリーや友達と出会って一緒に色々な場所に出かけ、楽しい時間を過ごせたことがこの派遣での一番の思い出になりました。

ホストとの対面当日ワクワクと緊張を感じながら新モンゴル校に行くと優しいお姉ちゃんのゴンちゃんとエンジーちゃんが私を迎えに来てくれていました。簡単な自己紹介をし合うと、家まで連れて行ってくれました。ドキドキしながら家のドアを開けたら、お父さんとお母さん、弟のトモロくんとボマくんが笑顔で歓迎してくれました。家には日本の漫画やアニメキャラクターのフィギュアなどを沢山飾ってくれていて、「日本のことがとっても大好き」と言ってくれました。

ホームステイ初日、ゴンちゃんとエンジーちゃん、二人の友達と一緒に遊びに出かけました。みんなモンゴル語で会話をしていたのと初日で緊張していたのもあって私は話しかけることを躊躇してしまい、みんなにあまり馴染めていませんでした。そのままサバイバルゲーム



ムをすることになりました。サバイバルゲームが初めてだった私はやり方が分からず困っていました。すると友達みんなが英語やジェスチャーを使って一生懸命教えてくれました。モンゴルにはやさしい人ばかり

だと知れた瞬間でした。そのおかげで私は肩の力が抜けて積極的に話しかけることができ、サバイバルゲームでも協力しあったり勝った時は喜びあったりして、帰る頃にはみんなと笑い合うくらい親しくなれました。

他の日にはホストにモンゴルの色々な観光地に連れて行ってもらいました。その中で印象に残ったことが三つあります。一つ目はチンギス・ハン騎馬像です。そこではホストにモンゴルの歴史について教えてもらいながらモンゴルの伝統衣装のデールや昔使われていたモンゴル語、ドミノやチェスのような遊び道具などを見学できて、沢山モンゴルの歴史に触れました。また、ラクダ乗り体験やイーグルを腕にさせる体験もさせてもらえました。

二つ目は母方の祖母が住んでいるゲルに連れて行ってもらったことです。ゲルに着くまでの道はとても田舎で、当たり一面が緑や牛や馬や羊の群れに囲まれていました。田舎の空気

は本当に澄んでいて肺にスッと入ってくる感じがしました。ゲルに着いたらおばあちゃんが馬乳を飲ませてくれました。馬乳は苦くて酸っぱくてとにかく強烈な味がしました。

三つ目は、兄妹のみんなでウランバートルで最も大きな公園に行ったことです。そこはすごく広くて歩き疲れていたのですが、モンゴルで有名なミルクアイスを食べさせてくれて疲れなんて一瞬で吹き飛びました。アイスを食べ終わって帰る頃には、日が暮れ始めて公園のライトアップが始まってすごく綺麗な夜景も見ることができました。

家では、お母さんとエンジーちゃんに教えてもらいながらモンゴルの伝統料理の「ホーショール」を作りました。味や見た目は焼き餃子に似ていてモンゴル料理で特に美味しいと感じた料理の一つでした。5日間という短い時間だったけど、モンゴルでたくさん貴重な体験をさせてくれて、私を成長させてくれたホストと過ごした時間は絶対に忘れられない思い出になりました。

私は、この派遣事業に参加するまでは「本当に外国で、しかも家族と離れてやっていけるのか」「外国の人と仲良くなれるのか」と不安に思っていました。でも、いざ行ってみて確かに日本と違って不便に感じることなどはあったけれど、それを掻き消すくらい楽しかったし、積極的にたくさんコミュニケーションを取れば文化が違うからといって現地の人と仲良くなれないなんてことはないんだなと実感できました。このようにモンゴルで学べたことを日本で伝えていって日本とモンゴルをもっと繋いで行けたら良いなと思いました。



モンゴルでのホームステイ体験

岩倉中学校 3 年 島田 聡介

この派遣に参加したときから、僕はモンゴルでの生活に対して期待と不安の両方を抱えていました。というのも、ホームステイのホストに会う直前まで、滞在先が決まっていなかったからです。どんな家族なんだろう、日本のことをどうやって伝えようか、そんなことをずっと考えていました。

モンゴルに来て 2 日目、ついにホストの方と対面する時が来ました。「帰りましょう」と声をかけてもらった瞬間、自然と笑顔になりました。僕を受け入れてくれたのは、大学受験を控えた高校生のナミさんでした。

ホームステイ中は、ナミさんや他の派遣団員と一緒にさまざまな時間を過ごしました。ある日、同じ派遣団員の鈴木さんと彼のホストのアナンダさんと一緒にショッピングモールに出かけました。モンゴルのお店を歩きながら、日本と売ってる物の違いや共通点、物価の違いに驚きました。いろいろなものを食べたりして、とても楽しい時間になりました。

学校では、ナミさんとは別のクラスに所属しました。最初は不安もありましたが、すぐにクラスメイトが声をかけてくれました。特に「ちいかわ」というあだ名の生徒がいつも気にかけてくれ、一番仲良くなりました。僕が日本語のわからないところを教えたり、彼がたくさんの友達を紹介してくれたりして、一緒に行動するうちに、友達がたくさんできました。その優しさにふれることで、モンゴルの人々の温かさを実感することができました。

ホームステイ中の食事では、モンゴルの伝統的な料理をいただきました。特に印象に残っているのは、「ツイヴァン」という料理です。日本の焼きうどんのような見た目で、ラム肉が入った麺料理です。とても食べやすく、美味しかったのを覚えています。そのとき、ナミさんが、日本の YouTuber が作った「ツイヴァンの歌」の動画を見せてくれました。まさかモンゴルの料理と日本の YouTuber がつながるとは思っていなかったので驚きましたし、食事を通じてモンゴルと日本のつながりを感じることができました。

また、東京から派遣された高校生のひでちかくんが、僕と同じホームステイ先でした。最初は少し気を遣い合っていましたが、同じ日本から来た仲間がいることは心強く、まるでお兄ちゃんができたと感じるような感覚でした。お互いに助け合いながら、モンゴルでの生活をより楽しむことができました。

ある日、ひでちかくんも一緒に、みんなで遊園地に出かけました。ジェットコースターに乗って叫んだり、一緒に写真を撮ったりして、日本にいたとき以上に特別で楽しい時間を過ごしました。

さらに、ナミさんのお兄さんから「日本の食べ物を作るといいよ」と言われ、自分で日本の料理を作って食べてもらいたいと思っていたのですが、残念ながら時間が足りませんでした。その代わりに、日本のお菓子「ねるねるねるね」をみんなで作って食べました。ナミさんは最初、粉を混ぜるだけで、色が変わってスライムのようなお菓みに驚いていまし

たが、楽しそうに食べてくれて、それがとても嬉しかったです。ひでちかくんも「久しぶりに食べた」と感動していて、その姿も心に残りました。小さな体験でしたが、日本のお菓子を一緒に楽しんでもらえたことは、大切な思い出になりました。

そして、いよいよ別れの時がやってきました。派遣団員とそれぞれのホストの皆さんがモンゴル校に集まり、最後のお別れをしました。これまで一緒に過ごした仲間やホストと別れる時間が近づくにつれ、どこか切なく胸が締め付けられるような気持ちになりました。僕はナミさんに向かって感謝の言葉を伝えました。短い期間でしたが、ナミさんのおかげでモンゴルの生活でたくさんの楽しい思い出を作ることができました。

バスが動き出すと、言葉にできない寂しさを感じながら、心の中に温かい思い出が残っていました。ナミさんたちと過ごした日々は、僕にとってとても楽しく、かけがえのない経験になったと思いました。

この体験を通して、人とのつながりの大切さを学びました。これからの生活でも、この気持ちを大切にしていきたいです。



This is Mongolia!!

岩倉中学校3年 鈴木 心人

僕がこのモンゴル派遣で印象に残っているこっていることは、ホストファミリーとの生活、食文化の違いとサマースクールです。

僕のホストファミリーはお父さん（ホームステイ中は不在）、お母さん、息子（高校3年生）、姉（結婚して別で暮らしている）の4人家族です。僕の世話はお母さんとアナンダというニックネームの息子がしてくれました。お母さんはモンゴル語とロシア語を話すので、僕と会話する時は身振り手振りで伝えてくれました。言葉が通じなくてもなんとかすることが体感できました。アナンダがいる時は日本語が得意なので僕には日本語で話してくれました。サマースクールでモンゴルの高校生の授業に参加させていただきましたが、漢字やひらがなも使い普通に読んだり書いたりしていて驚きました。アナンダが日本語が得意な訳がわかりました。ホームステイ中に一番楽しかったことは、映画鑑賞です。僕のホームステイの家に同じ派遣に参加した子とそのホストファミリーのナミさんが来て4人で一緒に映画を見ました。タイトルは「white chicks」という洋画でしたが日本語字幕をナミさんが出してくれたのでそれを見ながら楽しみました。

次に僕が衝撃を受けたのはホームステイ中の食事です。朝はお菓子やフルーツ、卵焼きを食べました。卵焼きにはトマトが入っていて驚きました。お家にしょうゆがあったのでそれをかけたら美味しかったです。フルーツはスイカやドラゴンフルーツ、梨、バナナ、ブルーベリーなどでした。モンゴル人はスイカの種をそのままポリポリ食べるのに驚きました。梨とナイフを渡され皮をむいて食べてくださいとジェスチャーされた時は、日本で包丁で皮をむいたことのない僕にとって「ええ...まじか」と思いました。日本でお母さんがむいてるのを思い出して、見よう見まねでやったらゴツゴツの黄色い塊になりました。形は悪かったけど味は普通の梨で美味しかったです。飲み物では、ナミさんの友人宅でだしてもらった馬乳酒が印象的でした。馬乳酒は白色で酸っぱくて頑張って飲みましたが本当はあまり美味し



くありませんでした。その次の日は馬乳酒にお腹をやられて一日ダウンしていました。最終日にレストランで飲んだコーヒー(コーヒー風味の砂糖)が今までモンゴルで飲んだ飲み物の中で一番美味しかったです。

あと、サマースクールで知り合った高校生との会話が印象に残っています。僕たちに話しかけてくれた子の中でナルトダンスを知っていると云われ、同じ派遣団員の島田くんと

犬童さんと一緒に踊っていて面白かったです。その子は日本のゲームもやっていて熱く語り合っていました。ダンスやゲームなど共通の話題があると海外の子ともつながれることがわかりました。

この海外派遣を通して、僕はモンゴルと日本の違いについて学びました。いろんなことがあるたびにここは日本ではなく海外だなと再認識させられる時が多々ありました。大変なことや不便を感じるが多かった派遣でしたが、その代わりに多くの学ぶことができました。この貴重な経験を活かしこれからも頑張っていきたいと思います。



2つのホストファミリーに出会えて

岩倉中学校3年 鈴木 仁渚

私がこのモンゴル派遣で1番楽しみにしていたことは、ホームステイです。昨年、姉が同じ派遣に参加させていただきその時に受け入れてくださった家族がとても温かく、本当の家族のように姉が楽しく過ごしていたのを聞いていたので、私の派遣が決まった時から楽しみにしていました。家族旅行とはちがい、外国の知らないお宅へ一人で行って生活することは不安もありました。どんな人が私のホストファミリーになってくれるのか、ホームステイ先のお宅にいったちゃんとコミュニケーションをとって仲良くなれるのか、そこで提供していただく食事はどんなものでちゃんと食べれるかなど、不安や楽しみな感情が入り混じっていたのが正直な気持ちです。言葉もうまく通じるのか、英語もあまり得意ではない私にとってホストファミリーの子が日本語ができたらいいなと期待していました。

モンゴルに着いて2日目、いよいよホストファミリーと出会う朝がきました。前日はホテルに宿泊し、朝食を食べ、バスで新モンゴル校に向かいました。バスの中でいよいよ会えるという緊張がどんどん増して、窓から見えたウランバートル市内の景色もあまり目に入らなかったです。到着したら、学校が街の中でビルのようにそびえ立って立派だったことも印象的でした。ホストファミリーの皆さんは、学校の外で私たちを待っていてくれたので、まず全員であいさつを交わしました。日本語が上手な先生がペアを発表してくれました。その後全員で写真撮影をして、家族ごとに別れ解散しました。



私のホストファミリーは新モンゴル校で教頭先生をやってみえるお母さんと高校1年生の女の子でした。その方のお宅に私ともう1人の子と2人でお世話になりました。ホストファミリーのお宅までは車で学校から20分ぐらいかかり、歩きだと30分ほどかかります。その日は車で帰りましたが、サマースクールには徒歩でステイ先の高校生の女の子と通ったので、普段自転車通学の私にはとても大変だと思いました。ホストファミリーのお宅はマンションでしたが、エレベーターがなく、着いたときは重いスーツケースを持って4階まで上がらなくてはいけなかったもので、さすがにしんどかったです。そのうえ階段は日本のように段が均一でなく、全て高さが違ったので登るたびに毎回転びそうになったのでとても苦労しました。お宅ではかわいい真っ白な犬が出迎えてくれました。とても賢く人なつっこい性格で私も癒されました。ホストの女の子のニックネームはセナと言います。セナは日本語が他の子よりもすごく上手で、私にも常に日本語で話しかけてくれました。ホストマザーは日本語が話せないので、セナが通訳をして助けてくれました。新モンゴル校の生徒たちは英語はもちろん私たちよりも上手で、さらに日本語も難しい授業を受けて話すことができるので、3カ国語もできるなんて本当に驚きでした。ホストファミリーは滞在中に乗馬やラクダ乗り、ゲルの中で食事ができるレストランに連れていってくれました。温かい歓迎を受けてとてもうれしかったです。

今回の派遣では昨年姉がお世話になったホストファミリーとも会う機会を作っていただくことができました。姉のホストマザーが1日私を預かって、その子供達と一緒に遊園地と伝統的なお土産屋さんに連れていってくれました。遊園地では中学生2人の女の子とホストマザーと一緒にいろ



いろな乗り物に乗りました。その女の子たちは初対面の私にも優しく接してくれて、1日だけで心が通わすことができました。姉から預かった手紙やプレゼントも渡すことができました。本当に良かったです。

私はこの派遣を通して、たくさんの人の協力があったからこそ、私たちがこんなにも素晴らしい経験ができたと思います。自分の家族のように優しく接してくれた2つのホストファミリーは私にとって第2、第3の家族になりました。たくさんの人に感謝してこの経験を私の今後に活かし、人との出会いを大切に過ごしていきたいと改めて思いました。本当にいい思い出をありがとうございました。

ホストファミリーとの思い出

南部中学校3年 中村 美結

私は岩倉市中学生海外派遣事業で7月31日から8月8日までモンゴルに行きました。その中で、ホストファミリーと過ごした5日間が一番の思い出となっています。

私を受け入れてくれたのはノミンの家族です。初めてホストファミリーと対面した時、私は緊張でいっぱいでした。しかし、私より一つ年上のノミンとノミンのお母さんが優しい笑顔で迎えてくれたおかげで、緊張が解けとても安心しました。

そして、その日はノミンの祖母が住んでいるゲルを訪れました。ゲルの中には、電子レンジ、テレビ、掃除機、ソファまで置いてありました。私は、モンゴルに行く前、ゲルが草原の中にある写真を見ていたため、ゲルの中に電化製品が置かれていて、日本と同じように電気が使えることにとても驚きました。ゲルの中では、ノミンの親戚と一緒に羊の肉を食べたり、ノミンの5歳の妹と遊びました。ノミンの妹は、日本のキャラクターの「クロミ」が大好きで「クロミ」の服、靴、髪留めをしていてとてもかわいかったです。そして、現在日本に滞在しているノミンの姉ともビデオ通話をさせてもらいました。モンゴル



について心配なことや知りたいことなど、色々なことを私にきいてくれて、とても親切にしてくれました。また、ノミンの姉が春に日本で着物を着ている写真、東京の浅草の雷門の前での記念写真を見せてもらい、お互いの文化の繋がりを感ずることができました。

さらに、ノミンも今年の2月に日本にホームステイに来ていて、横浜や東京を訪れていたことを知りました。モンゴルのウランバートルには電気がないので、東京で初めて電車に乗った時はとてもワクワクしたと話していました。ノミンは日本のアニメや日本の食べ物が好きだと言っていたので、私が日本のおすすめの食べ物を紹介するととても喜んでくれました。

ホストファミリーと対面した2日目、3日目は、チンギス・ハン騎馬像や博物館へつれていってもらいました。モンゴルの伝統的な遊びや歴史について詳しく知ることができて、とても勉強になりました。

4日目は学校終わりにノミンとノミンの友達と4人でゲームセンターへ行きました。ノミンの友達は、日本語がすごく上手で、人見知りな私にも積極的に話しかけてくれたおかげで、すぐに仲良くなることができました。ゲームセンターではバスケやサッカーなどの球技やカラオケなどをしました。ノミンの友達は y o

a s o b i の曲が好きだときいていたのでカラオケでは、4人で y o a s o b i の曲を歌いました。出会ったばかりのモンゴルの学生と日本の曲を歌うのは不思議な感じでしたが、好きなアーティストがきっかけで距離が近づいたのだと思いました。また4人で集まった時は、今度はモンゴルの曲も一緒に歌おうねと約束しました。

最終日は、ホストファミリーから巻物をプレゼントしていただきました。目の前でモンゴル文字で自分の好きな言葉を一筆一筆丁寧に力強く書いてもらい、すごくワクワクしました。最高の思い出になり、今も大切にしています。

モンゴルでの5日間を、私にいつも親切にしてくれたホストファミリーと過ごすことができ、モンゴルの生活を心から楽しむことができました。また、ノミン、その家族、友達と、日本の文化、食べ物、アニメ、音楽等を通じて、色々な話をできたことも貴重な体験になりました。もちろん、今までと異なる文化や生活に戸惑ったり、言語がうまく伝わらず大変なこともありましたが、それ以上にモンゴルで様々な経験ができ、多くの人とたくさんの思い出をつくることができました。モンゴルでの体験を経て、今度は私がホストファミリーとして日本で海外の学生を受け入れる側になりたいと思いました。ノミンが私にしてくれたように、日本の文化を伝え、体験してもらい、最高の思い出を一緒に作れたらいいなと思います。



モンゴル派遣の思い出～ホームステイ～

岩倉中学校2年 犬童 大地

僕がこの作文で伝えたいことはホストファミリーの優しさにたくさん触れたことです。僕のホストファミリーの家族構成は陽気なお父さんのナサンさん。料理が上手なお母さんのアルンガンドルさん。その二人には子どもが三人いて長男のチンギスさん、長女のアミナさん、そして僕が二日間登校した新モンゴル学園に通っている次男のバヤルさんでした。

一日目は僕がまだ緊張していた中でナサンさんが「どこに行きたい」と繰り返し聞いてくれました。そんなたわいもない話題から話しやすい雰囲気になりました。そして出発前から日本で調べていたチンギス＝ハン像を希望すると、さっそく連れて行ってくれました。昼食でバヤルさんと二人でピザを食べている時に、英語があまり得意ではない僕のために必死に日本語やジェスチャーでコミュニケーションを取ってくれて助かりました。ナサンさんの家に戻ってからは、アミナさんとバヤルさんにトランプをやりませんかと提案したら、快く「いいよ」と言ってくれました。実はその夜に僕は体調を崩してしまったのですが、急いで薬を買ってきてくれ「ベットで休んでいいよ」など温かい言葉をかけてくれて心細い思いが吹っ飛びました。

二日目も常に体調を気にしてくれました。朝は少し調子が悪かったのですが昼からは回復しました。昼食は遊牧民の方が作ってくれたうどんを食べました。その帰りにもモンゴルの伝統的な料理を頂く機会がありました。ポーショールと言う名前の小籠包を大きくしたような料理を頂きました。牛肉の味がしっかりしていて美味しかったです。夜にはNHKのテレビ放送を流してくれたので、日本で何が起きているか知ることができました。お風呂の使い方を質問すると、シャワーの使い方や、シャンプー・コンディショナー・ボディソープがどれかなど丁寧に教えてくれました。

三日目は新モンゴル学園から帰るときにバヤルさんが「バドミントンをしないか」と誘ってくれました。バヤルさんの友達も一緒に遊びました。僕の出番が多くなるようにしてくれたり、日本語で自己紹介をしてくれたりしました。夜はホストファミリーの親戚の集まりに行きました。モンゴル料理の店で日本語混じりの会話を十人ほどと楽しみました。

四日目は比較的ゆっくりと過ごしました。夜にモンゴルのゲームやモンゴル式のトランプをしました。丁寧にルールを説明してくれたおかげで、とても楽しく遊ぶことができました。

五日目はナサンさんが博物館とゲームセンターに連れて行ってくれました。博物館は恐竜の展示が目立ちました。ゲームセンターは日本でおなじみのものもあれば、韓国発祥の筐体もあって新鮮に感じました。昼食はアルンガンドルさんが働いている飲食店でラーメンを食べました。食べ終わった後にはナサンさんが経営している工場に行って牛肉を食べました。夕方にはバヤルさんと散歩に行き「一緒に過ごしたこの数日は楽しかった」と感慨深い時間になりました。最後の夜ということで夜中までお菓子を食べながらゲームをして盛り上がりました。

最後の日はモンゴル学園に送ってもらう時にナサンさんから「五日間ありがとう」と話がありました。最後に別れる時は固く握手をしました。体調を崩す時間もある中で僕がホームステイを楽しめたのは、ホストファミリーの優しさがあったからです。文化的な時間であれば現地の同世代が楽しむような時間も過ごさせてくれました。改めてナサンさん、アルンガンドルさん、チンギスさん、アミナさん、バヤルさんの5人には感謝しかありません。



旅の思い出

岩倉中学校 1 年 川本 美華

モンゴル I の大きさは伊達じゃない！？

みゆさんとみゆさんのホストファミリー、こはねさんとこはねさんのホストファミリー、私とホストファミリーの子の 6 人でチンギスハーン博物館へ行きました。チンギスハーン博物館はとても大きくて流石はモンゴル I 大きい博物館だと思いました。チンギスハーン博物館は 9 階建てになっていて、本来なら 6 時間かかるところを急いで見ることで 3 時間となりました。1 階は受け付けになっていて 2 階にあがってみるともう開いた口がふさがらないという感じでした。1 階、1 階が大きく、階数も多いのに加え、展示されているものも、



モンゴルの歴史を感じられて、気になるものばかりなので、たしかにこれは時間がかかるなと思いました。そして、最上階には大きな金のチンギスハーン像がありました。その前にあるザブトンのようなものに座ってお祈りをしました。あのチンギスハーン像は仏像のようなものだとはおもいました。

ドキドキ？ワクワク！新モンゴル学校！

新モンゴル校 1 日目。まず、9 時に新モンゴル校へ来て、1 時間目の授業を受けました。そして、何事もなく 2 時間目の授業も受けました。そしてそのまま 3 時間目を受けるといきや、新モンゴル学校の校長先生のお話を聞くことになりました。校長先生のお話が終わったところでお昼ご飯となりました。お昼ご飯は小中学校の給食のようで何か違うものを食べました。そして 4 時間目。満腹感から来る睡魔と闘いながら頑張って授業受け、そして来たる交流会です。自己紹介も 1 つあれ？と思う質問がありながら無事に終え、ジェスチャー伝言ゲームを終え、新モンゴル学校生徒のプレゼンテーションでモンゴル学び、歌を歌い、ソーラン節の音源で少しトラブルがありながらも、ソーラン節も踊り終えて、充実した 1 日だったと思いました。そして、私は思いました。これって転校してきた初日と大差ないのではと。

新モンゴル学校 2 日目。2 日目は 1 日目の失敗を生かして、8 時 30 分に新モンゴル学校に来ました。無事に朝の会に出席することができました。1 時間目は作文の授業です。作文はあまり得意ではないのですが、頑張って書きました。そして、1 時間目終了後に担任の先生と LINE を交換することができました。3 時間目は新モンゴル学校である、文化祭のような、学芸会のようなもので、何を発表するのかを決めていました。候補として出たのが、NV の再現とかぐや姫の劇(現代バージョン)です。15 分間やる必要があり、NV の再現だけで 15 分だと編集がすごいことになるみたいなので、かぐや姫の劇と NV の再現を 2 つともやることになったみたいです。といっても、NV の再現をする曲を決めるのはこの時できませんでした。3 時間目が終わるとお昼ご飯の時間になりました。そして、出てきたのは、昨日と似たような料理でした。そして、4 時間目はまたしても睡魔と闘いながら授業を受けました。4 時間目が終わると帰りの会が始まりました。それが終わるとカラオケ大会の時間となりました。岩倉派遣団の中でカラオケ大会に来たのは私を含めて 4 人、途中から 1 人来て 5 人でした。カラオケ大会には東京から来た人たちもいました。みんな、歌うのがとても上手でした。いろいろな人の歌を聴くことができたので、よかったです。歌はいろいろありました。有名アニメソングや名曲、私の知らない曲なのです。いろいろある中で、特に好きな曲は「打ち上げ花火」「Plazma」です。「Plazma」のほうは、そうすけさんが新モンゴル学校の生徒と一緒に歌っていました。あと、私が感動したのは「点描の唄」です。もともと「点描の唄」が感動する曲なのに、新モンゴル学校の先生たちで歌うとさらに感動しました。まさか、カラオケ大会で感動することになるとは思いませんでした。



「停電中のシャガイ」

岩倉中学校1年 三尾 龍平

8月4日、朝起きて、制服を着て、朝食にパンを食べたら初めての新モンゴル校へ。学校に着くも、集合の一時間も前に着いてしまった。

みんな集合した後、クラスに入れてもらって、授業が始まった。サマースクールは、日本語を徹底的にやる場所だけど、国語とは全然違って、普段何も考えずに出来るからこそ難しいという問題が多かった。クラスのみなさんは結構日本語が喋れて、絡みやすいというか、話しかけてくれるのでたのしかった。お昼は食堂で食べた。日本式の学校といってもこういうところはやはり日本とは違った。カレー、サラダ、枝豆っぽいスープ、オレンジジュースの見た目をしているけどオレンジジュースではない飲み物がでた。

その後は交流会をして、コスモスの合唱とソーラン節を披露した。反応が結構良くて、なんだか嬉しかった。

学校帰りにホストファミリーとチンギス・ハン博物館に行った。どうやら日本と違い、フビライ・ハンよりチンギス・ハンの方が有名、というかチンギス・ハンはモンゴルで一番有名な人らしい。チンギス・ハン博物館はスフバートル広場の近くにあり、ガラス張りの高い建物は、博物館というより銀行の本社的なものに見えた。

博物館の中には、壁画のレプリカや硬貨、馬のサドル、服などのものから、弓矢や剣、カタパルトまでさまざまなものが置いてあった。

一番上の階には金メッキの巨大チンギス・ハン像があった。そのエリアだけは靴にビニール袋を被せるほどなので、やはりよっぽどモンゴル人にとってチンギス・ハンは神聖な存在なんだろう。

博物館をまわり終わると、そこからはだいぶあるいてホストファミリーのお母さんの



たらいっている病院まで歩いて行って、そこから車に乗せてもらい家に帰った。

晩御飯に「ボーズ」と言う名のモンゴルの家庭料理が出た。小籠包みたいな形をしているが、蒸し餃子と言われた。中身は牛ひき肉みたいで、一口食べると肉汁が中から出てきてやけどしそうになったけど、美味しかった。

晩御飯が終わると「これをしよう」とある箱を出してきたその中には、たくさんの骨が入れてあった。「これはなに？」そう聞くと「シャガイという馬のレースゲームをするための動物の足首の骨だよ」と。

自分は（骨を使ってゲーム？）と思った。

なにやら骨をサイコロのように四つ振って、出た面によってコマを進められるというすごろくのようなゲームらしい。

平たい面が馬、馬に似ているが真ん中が凹んでいるのがラクダ、片方がふくらんでいるのが羊、谷型になっているのがヤギで、馬の数だけ進める。（馬、ラクダ、羊、ヤギが一つずつでたら四つ進む）

コマもコースももちろん骨なので大量の骨を机に並べるけれど、全て馬の向きで置かないといけないのでかなり神経を使った。

シャガイを始めるもなかなか馬すら出なくて進めない。低い所で転がした方が良いと言われてやってみるもやっぱりなかなか出ない。

そんな中停電がきた。「ゑ」本当に文字に表すなら「ゑ」と表すのに違和感が無いような「ゑ」が出た。でもどうやらこの家ではよくあるわけでは無いが、珍しいわけでも無いらしい。キャンドルや電気式のランタンを持って来て、何事もなかったかのようにシャガイは再開された。なんだかカジノみたいな雰囲気（カジノに行ったことは無いけど）で「なんかいいなあ」とおもった。

その後はフルーツの盛り合わせを出してもらえたのでそれをつまみながらトランプやウノ、持って行った黒ひげ危機一髪をやったりして結局終わったのは11時くらいだった。電気が使えない時は水道も使えないらしく、（シャワーどころか歯もみがけないのか）と思いながら自分の借りている部屋に入った時、なななんと電気がついたじゃありませんか。

それで最終的にシャワーも浴びられて、歯もみがけた。

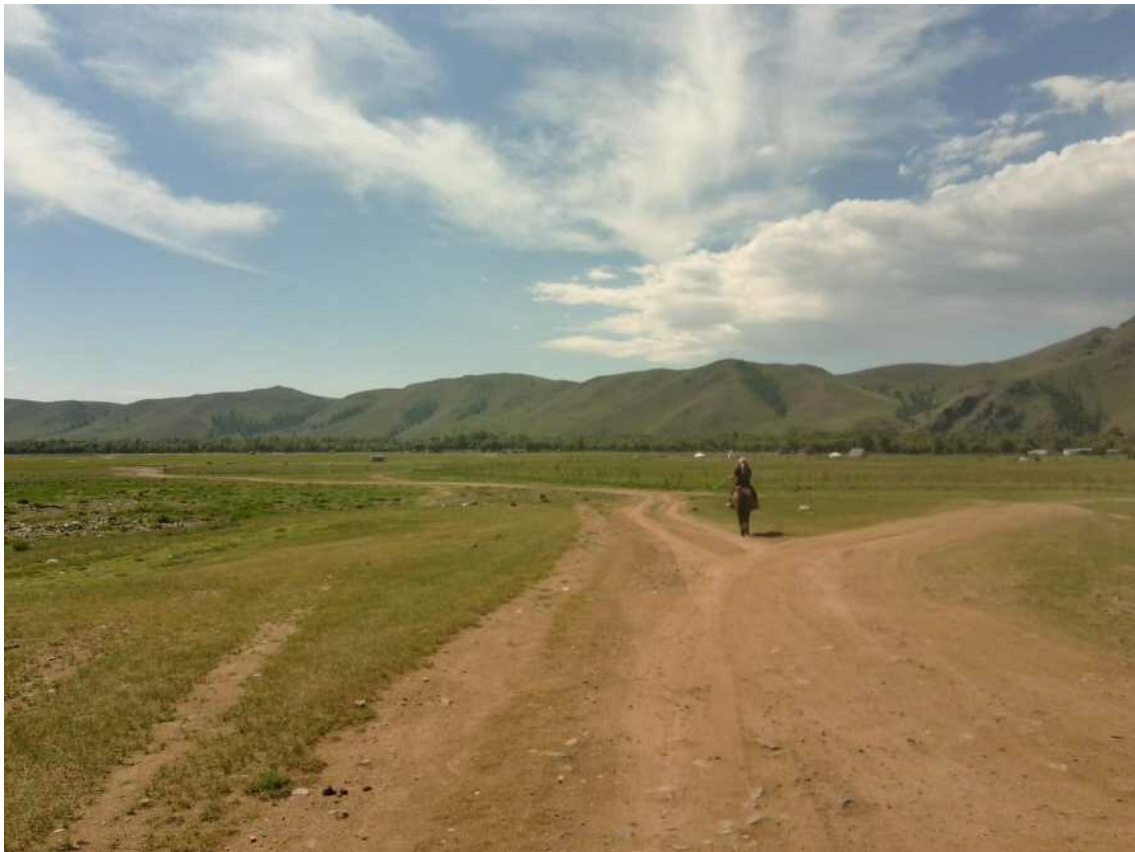


色々な体験を通して感じたこと

岩倉中学校 1 年 米田はなみ

モンゴルに行って、心に残ったことそして印象に残ったことが 2 つあります。

まず、1 つ目はホームステイ中にホストファミリーの人と乗馬体験をしに行ったことです。乗馬はモンゴルの田舎の方に行かないとできなかったのもので田舎の方まで車で行きました。途中ラクダに乗れるところがありそこでラクダにも乗りました。田舎の方に行くと野生もしくは放し飼いの馬や羊、山羊などがたくさんいました。日本ではあまりみない光景だったので車に乗っている間もとても楽しかったです。乗馬体験をする機会は日本でもあんまりなかったので馬に乗りながらモンゴルの草原を体で感じられた気がして、とても楽しかったです。また、実際にモンゴルに行ってみて最初に思っていた大草原が広がっているというイメージとは全く違うということもわかりました。田舎の方は家がちょこちょこあるくらいで草原が広がっているけれどモンゴルの首都、ウランバートルの方に行くと高いビルがたくさん立っていたり、車やバイクがたくさん走っていたりなど日本と一緒に発展をしているということがわかりました。また、モンゴルは電車がなくて、交通手段のほとんどが車かバスでした。そして、モンゴルの人はキャッシュレスの人が多く子供もカードを持っていて、何かを買う時とかはスマホのお金を払うものやカードでお金を払っていました。日本と一緒にのところもあれば日本よりも発展しているモンゴルを見て、実際に自分の目で見て



みないとわからないことや、全身で感じてわかることがたくさんありました。

印象に残っていることの2つ目はモンゴルの学校についてです。新モンゴル学校は日本の学校を取り入れて作られている学校ですが想像よりも日本の学校と似ていて驚きました。

また、授業もほぼ日本と一緒にしました。2日目の学校体験の様子です。1時間目は先生が来なくてみんな遊んでいました。先生が来ないと遊ぶというところはやっぱりどの国でもそうなんだと思いました。2時間目は、漢字の授業がありました。何よりも驚いたのは先生が日本語で漢字の授業をしていたことです。漢字の授業では、漢字の成り立ちや意味について教えていました。



小学生で習う漢字が主に出ていたのですが、私たちが習っている漢字の教え方と少し似ている部分があって、ちょっと嬉しかったです。2時間目と3時間目の間には給食の時間がありました。日本の給食とは少し違って、食堂みたいなのところがあり、そこで自分の食べたいものを買って食べるという感じでした。ここでも、お金ではなくカードで買っていました。3時間目は、PWJ という授業で日本という学活や総合みたいな授業をしていました。この時間は Vaundy の「踊り子」という日本の歌を文化祭で歌うために練習をしていました。文化祭があるというのも驚きましたが、みんなが日本語の歌詞を見ながら歌を歌っていたのにも驚かされました。最後、4時間目の授業では、日本語の使い方や読み方など日本語をどれくらい理解しているかみたいなことを授業していました。日本人が英語の授業をしているように、モンゴルの学生たちも日本語という海外の言葉について勉強しているんだなと感じました。2日しか学校には行っていないけれど、モンゴルの学校では日本語について学んだり、お互いに理解し合おうとする気持ちが大事にされていると感じました。

全体的にモンゴルと日本では、似ている部分もあれば、違う部分もたくさんあり、モンゴルの広い自然や独自の文化を学びながら、学校の授業や生活の中で、日本と共通する部分がたくさんあることに気づきました。これからもモンゴルとの交流を大切にし、もっとお互いの文化を知り、学び会いたいと思います。

訪問団に同行して

岩倉市国際交流協会 三浦 光俊

仁川国際空港で振り返りをした時、よくなかったこととして、6人が時間を守れなかったことを挙げていました。時間を守れなかったといっても5分遅れる程度でした。皆時間を意識して行動できたと思います。

時間について日本と外国の意識の違いを感じる場面でした。日本では電車が2分程度遅れるだけでも、必ず謝罪のアナウンスが入ります。飛行機でも5分程度の遅れでも謝罪のアナウンスが入ります。時間を守ることよりも安全に運行すること、目的を達成することの方が大切なのではないかと思います。

まあ今回は時間の遅れ程度しか反省点はなかったととらえれば、それだけ問題はなかったと言えます。

その他の良くなかったこととして出たのが、日本人だけで固まっていた、とか、積極的に活動できなかったというのがありました。こちらの方が問題が大きいのではないかと思います。積極性を出せた人もいましたが、最後まで積極的に動けなかった人がいたことも事実です。各自が初めに語っていた目標は達成できたのでしょうか。

一番心に残っていることとしては、学校での交流が3人、ホストファミリーとの交流が4人、派遣団での観光が3人でした。どの子も良い経験をし、楽しい思い出を作ることができたことと思います。誰もが笑顔で過ごすことのできた9日間でした。

来年に向けて言いたいこととして次のことが出ました。

- ・お金を計画的に使えるようにしよう。
- ・ホストファミリーに自分から話しかけよう。
- ・自分から動いてみよう。
- ・しおりをしっかりと読み込んでおこう。
- ・仁川での乗継時間が長すぎるので、もっと短い計画を立ててほしい。

次回の計画を立てる際の参考事項として次のような提案をしたいと思います。

・8月の第1週は新モンゴル高校に日本からの訪問団が集中するので、お盆の後の時期にしようか。今年は同時期に71人ものホームステイ希望者があり、新モンゴル高校としては大変苦しい対応になったと思われる。

・日本からの直行便を確保できると良いので、そのために応募時期をもっと早くしてはどうか。例えば前年度の3月に選考して参加者を確定すれば余裕を持って飛行機の確保ができる。

最後に新モンゴル校が私たちの希望を受け入れ、多忙の中、実り多い交流になるようご尽力くださいましたことに感謝いたします。また、派遣事業にご理解とご協力をいただきました市の関係者の皆様に感謝申し上げます。



令和7年度
 岩倉市中学生海外派遣事業報告書
 モンゴル
 発行 岩倉市教育委員会
 発行日 2025年10月1日
 編集 岩倉市国際交流協会